

サクサクと落ち葉を踏みしめて歩いていると、不意に漂って来る甘い香りに心が和む瞬間に出会えます。足元に目を落とすと愛らしいハート型の枯れ葉。見上げると紅葉したカツラの木。12月に入ると木々の紅葉はイルミネーションへと移り変わり、迫り来る年の瀬を感じさせられます。

後藤健太より

SNS等で私と繋がっている方は、後藤がここ数年居合剣術に没頭していることをご存知かと思えます。本業そっちのけで何をやっているのかと思われているかもしれませんが、実はこれは当社の主軸事業に深く関わっています。

行為だけを表面的に見れば居合剣術をやっているように見えますが、研究しているのは武士道です。この武士道の本質を探るには机上の文献研

究(形式知)だけでは不足します。そこに実践知が決定的に欠けているからです。ではなぜ私が武士道に興味を持ち、居合剣術に没頭し始めたかという、石田梅岩や二宮尊徳、渋沢栄一、また古くは近江商人らによって築き上げられた商人の倫理観は武士道の価値基準に則っており、現代の経営哲学の礎になっていると知ったからです。

当社は、組織風土改革や企業文化醸成の

分野におけるコンサルティングを主軸としていますが、よくある相談の一つに従業員の当事者意識の醸成があります。自立した人材の育成は持続的に進歩発展する経営の必須条件です。それを実現するヒントが実は武士道にありました。武士道と持続的進化経営、このテーマにおいて当社は日本一の経営コンサルティング会社を目指しています。(太)

真剣斬法を学んでみませんか

11月に後藤真剣斬法研究会を発足しました。これまで、訪日旅行者も含め延べ1000人以上に斬法指導を行ってきた実績をもとに、「斬る」為の洗練されたプログラムを提供します。一般向けには斬法指導、団体や企業向けにはビジネス研修、訪日旅行者には武士道体験のプログラムを用意しております。

昨今、武士道をリベラルアーツ(教養)として再評価する動きが出てきており、武士道をテーマとした書籍やセミナー、研修などが注目されていますが、より有益なものにするためには、座学と同時に実技が重要となります。

武士の象徴といえば刀。鎧甲冑を「着る」ことより日本刀で「斬る」ことの方が重要です。では、何を斬るのか。断ち切りたい何かはその時々で人それぞれ。過去に対する後悔や未来に対する不安を断ち切り、今ここにフォーカスして今やるべきことを決断する。決断力と判断力が身につく斬法を学ぶことは未来の切り拓き方を学ぶことでもあります。

個別指導、各種研修などお気軽にお問い合わせください。(太)

Professionalは階段を上る?!

NHKの「プロフェッショナル-仕事の流儀-」を見ていると、結構な確率で階段を上るプロフェッショナルがいっぱいいます。自身が勤務する病院や自社ビルなど、エレベーターがあるにも関わらず…です。健康のためようですが、こうした自身に課したルールをスティックに守り抜く姿勢

にプロフェッショナルの仕事の流儀を垣間見た気がします。

番組の最後の「プロフェッショナルとは?」という問いにそれぞれ回答しておられますが、言葉だけではなく彼らの日々の行動にこそ学ぶべき姿勢(流儀)があるので、とふと感じさせられました。(仁)

ようこそ太仁亭 (tajin - tei) へ!

前号でご紹介した調味料の中で、三升漬については太仁亭でアレンジしたレシピがございます。

北海道や東北地方の郷土料理である三升漬は、麴・醤油・青南(青唐辛子)をそれぞれ1升ずつ漬け込んだものです。日を置くにつれ、麴が熟成して青南の辛みの中にもまろやかな麴の甘みが広がる極上の調味料となります。

昨夏、太仁亭では自然栽培の農家さんから沢山の甘長唐辛子を頂いたため、それを青南

の代わりに漬けておきました。三升漬のような辛みはなく、お豆ちゃんの食がかなり進む調味料でしたので、さてこれを使い切ってしまったらお豆ちゃんの食事はどうするか…といった危機感があり、思い付いたのがピーマンです。早速青南をピーマンに替えて三升漬を仕込んでみましたが、とても美味しく出来上がって重宝しています。辛みの苦手な方やお子さんには、唐辛子の品種の中からピーマンやシトウで自家製三升漬を楽しんではいかがでしょうか。(仁)

今月のお豆ちゃん

現在2歳10か月のお豆ちゃん。歌う、踊る、描く、戦いを挑む…そんな日々を過ごしています。兼ねてより、音楽や造形、武道などをやらせたいと思っていた我々は、まずはリトミックの体験に参加して参りました。あまり人見知りをしないお豆ちゃんは、はじめの数分だけもじもじして、その後は走って転がって回って、物怖じせずとても元気。リトミックは初めてでしたが、ピアノの音に合わせて「そよ風」や「台風」などの様々な風を体で表現したり、ブルーシートで波の音などを表現して楽しみました。とても楽しかったようで、「また行きたい」と申しております。(仁)



良いお年を

見出しの写真は八王子市中山エリアから多摩ニュータウンを望む光景です。ここは正に「里山」。田畑や柿の木に複数のカラスが舞い降りるのを見ると童謡「七つの子」のメロディが頭をよぎり、ノスタルジックな思いが湧き上がります。年の瀬に望郷の念は付き物。どうぞ良いお年をお迎えください。(仁)

編集者：後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp

発行日：2017.12.4 小雪(しょうせつ)

橋始黄(たちはなはじめてきばむ)

発行所：株式会社コンセプト・コア

☎192-0373

八王子市上柚木 2-63-10

TEL/FAX 042-641-8997

http://ccore.co.jp/

過去号：ウェブサイト↑からご覧頂けます。

CONCEPTCORE